

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「自分の思いや願いを実現しようとする子」
○学力を獲得した知識のみの枠に留めるのではなく、自ら学ぶための意欲と能力を加味した指導を実践します。(知)
○自分自身を知り、個性を認め合い、考えを尊重し合い、互いに共存していこうとする態度を育てます。(徳)
○多様な動機付けのもと、食育と体育の両輪による健全な身体の育成と体力向上を目指します。(体)
○発達段階に応じた探究・創造などの体験活動を重視し、「自分たちがつくる社会」について考える姿勢を育てます。(公)
○コミュニケーションを通して人と関わりつながっていくために、自分から挨拶する態度を育てます。(関)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

<問題発見・解決能力>
<言語能力>
<自分づくりに関する力>

具体化した資質・能力

○基本的な生活習慣をつくる態度 ○主体性・積極性
○他者を理解する態度・自己を理解する姿勢 ○自分らしさを発揮しようとする姿勢
○学校生活へ参画する姿勢 ○つながりを考え、合意形成する姿勢

中期取組目標

児童、教職員、保護者、地域住民など、そこに関わるすべての人々が、共に学び合い高め合う学校を目指します。
○子どもたちが自分の好きなこと、本当にやりたいことを見つけ、自分たちの力で解決していくための、学びの場や時間を保証します。(解決)
○子どもたちが生命・健康・個性を大切に、自分らしさを発揮できるようにします。(個性)
○子どもたちが互いのよさや、可能性を認め合えるようにします。(共生)

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (生きてはたらく知), 具体的取組 (授業力の3要素「児童の実態把握力」「教材研究及び開発力」「教育技術力」を向上させ、魅力ある授業・分かる授業を実践する。3年生以上の一部教科分担任や中学年の算数における少人数学習熟度別指導を活用して、基礎・基本の定着を基盤とした「進んで学び、学びを深め、学びを活かす子ども」の育成に励む。)

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力の概要と要因の分析
教科によって多少の差はあるが、全体的に平均よりも高い学力を身につけることができている。学習意識が教科によって差が出ている。基礎・基本の定着が図られ、少しずつ学力が伸びていることが考えられる。
(2)経年変化の状況と要因の分析(学習・生活意識調査も含めて分析)
国語の学力が平成30年度に比べて令和元年度は伸びている。学習意識もあり、国語のおもしろさを感じながら学習している様子が見られる。社会の学習意識が向上して、全体として社会そのものの楽しさや大切さ、できる楽しさを感じられるようになっていると考えられる。算数と理科の学力はほぼ横ばいではあるが、学習意識の向上に差があり、30年度は理科や家庭科の専科の良さが発揮されたと考えられる。算数の学習意識の向上については、中学年で取り組む少人数制で算数の楽しさやおもしろさを伝えていきたいと考えている。全体として市の平均値を超えている状況は続いている。生活意識もほぼ横ばいで、学力に比べれば低い様子が見られる。家庭の状況も様々であることが考えられる。

今年度の目標

児童、教職員、保護者、地域住民など、そこに関わるすべての人々が、共に学び合い高め合う学校を目指します。

目標を実現するための具体的行動プラン

【1・2年】○基本的な生活習慣をつくる態度 ○主体性・積極性
○学校生活において様々な役割が必要な事を知り、責任をもってその役割を果たすことができるようになる。
○提示された課題に対し、自分の経験や知識と関連づけて考えたり、友達と意見交換をする中で新しい考えを思いいつたりして、意欲的に授業に参加できるようにする。
【3・4年】○他者を理解する態度・自己を理解する姿勢 ○自分らしさを発揮しようとする姿勢
○基礎基本の定着を図り、自信をもって学習に取り組めるよう指導していく。算数は少人数制授業を取り入れ、個に応じたきめ細かい指導を行う。
○友達の話や意見を聞くことを大切に、ただ言葉を聞き取るだけでなく、意図や思いを聞くことができるように、聞き方の指導を行う。
【5・6年】○学校生活へ参画する姿勢 ○つながりを考え、合意形成する姿勢
○基礎基本の定着を図りながら、自らの課題を自分で見つけ、主体的にとらえ、その課題解決のためによりよい学習方法を探して解決しようとする態度を育てる。
○目的や意図に応じて、自分の考えが分かりやすく伝わるよう表現を工夫できるようにする。また、考えを共有することで、互いの考えを比較し、考えを広げられるように、話し合いの場を意図的に設定する。
【個別支援学級】○基本的な生活習慣をつくる態度
○個別的教育支援計画・個別の指導計画に基づき、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場を設けるようにする。
○教科・領域を通して、話の聞き方について指導するとともに、基本的な話型や文型を示し、表現する場面を計画的に設ける。

上半期
下半期

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (豊かな心), 具体的取組 (「だれもが、安心して、豊かに」生活できる学校をめざし、相手意識をもって他者の立場を考えたり行動したりすることを十分に価値付ける。「特別の教科 道徳」、人権教室、YPアセスメントを介して自分の考えを発信する力や他者の考えに共感する態度を育む。また、今年度は横浜市道徳授業力推進校として授業を研究、公開していくことにより児童が物事を多面的、多角的に考えられるようになる)

豊かな心に関わる本校の状況

生活意識に関する調査結果からは、生活の軸線が家庭内に偏り、地域とのつながりが希薄になっている様子が伺える。学校が両者をつなぐ役割を果たすと共に、家族や友だち以外の他者との関わりを増やしていくことで、より多角的に自分自身を客観視する視点を育むことが求められている。

今年度の目標

自分自身を客観的に見る視点を持たせ、個性を認め合い、考えを尊重し合い、互いに共存していこうとする態度を育む。

目標を実現するための具体的行動プラン

・全学級の道徳の授業を家庭・地域に年1回以上公開する。(社会情勢により変更有)
・系統的に道徳的価値に触れられるように、実態に合わせたカリキュラムづくりを検討していく。
・多面的・多角的な見方へ広げられる授業を展開する。
・家庭や地域での様子(あいさつ等)について、アンケートで子どもの実態把握を行い、道徳の時間に生かす。
・「たてわり」「児童会」「クラブ」活動などの異年齢集団活動を、より自主的、意欲的に行うことができるようにする。
・学校生活をよりよくするための「係活動」や「当番活動」に自主的に取り組むことができるように、自分たちで計画を立て運営できる力を育成する。
・小学校での学びを見通したうえで活動のねらいを設定し、校外の豊かな自然や文化に触れる「集団体験」を充実させる。

上半期
下半期

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健やかな体), 具体的取組 (新体力テストや生活意識調査の分析結果から、児童の実態と課題を再認識し、体育・健康プランに基づく取組を組織的に進める。昨年度までの重点研究で自ら体育の楽しさに触れてきた経験を生かし、体力向上のための動機付けと運動の日常化への意識付けを図る。併せて食育も充実させる。)

健やかな体に関わる本校の状況

1)体育・健康に関する実態
・市の平均に比べ、朝食の摂取率がやや高く、毎日食べていない子どもは少ない。
・地域に外遊びができる空間は限られている。
・保健室の利用状況(傷病の状況)は、友達関係の影響からけがにつながり利用する児童が増えている。
・1校1実践運動の取組の様子をみると、任意参加の活動では、実際に参加している児童は楽しんでいる子どもがほとんどであるが、参加しない児童も多く学校全体に広がっていない。また、運動の日常化という点で、まだ足りないところが多い。
(2)体力の概要と要因の分析(小学校は全校配付の体力・運動能力調査分析チャートを活用)

新体力テストの結果から、反復横跳び、長座体前屈は毎年のように全国平均や市平均を下回ることが多い。投能力については、運動経験の少なさが影響しているものと思われる。握力の低さは際立っていて、鉄棒・雲梯などの遊び経験の少なさもさるよう思われる。
総合的に見ると、学年による浮き沈みはあるものの、各項目の全国・市平均を上回る結果が出ており体力は上昇傾向にある。

今年度の目標

体育的行事を運動委員会(児童)が企画・運営し、内容と取組の充実を図り、運動の楽しさを味わわせ、体力の向上を図る。また、年間で体力向上にかかわる取り組みを位置付ける。

目標を実現するための具体的行動プラン

《体育科・保健体育科での取組》
・体育科・保健体育科では、重点研究を通して、自分から運動に主体的に取り組めるよう、運動の楽しさが伝わるようにしていく。
・自己の運動能力や体力に関心がもてるような授業を実践する。
《他教科での取組》
・家庭科では、食教育との関連を図り、自分の正しい食生活のあり方を考えられるようにする。
・運動会では、体育科・保健体育科で培った資質能力をさらに発展させ、力を最大限発揮できるような取り組みをめざす。
・運動委員会の活動を、より体力向上につながるよう計画する。
・球技交流会、体育大会などの体育的行事では、めあてを明確にし、目標をもって運動に取り組めるようにする。
・横浜FCと連携した体力向上の取り組みを進めていく。

上半期
下半期